

第2学年2組 図画工作科学習指導案

日時 令和3年9月30日(木) 3校時
 指導者 教諭 松尾博之
 場所 2年2組教室

本授業のポイント

「ふしぎな生き物」というテーマで制作した焼き物を様々な場所においてタブレットで撮影し、その中から自分で選んだ2枚の写真を見せ、どちらの写真が気に入っているかをみんなに問います。児童らは造形要素を手掛かりに話し合い、解答を考えます。制作時には個別最適な学習、鑑賞の時間には協働的学びの場を設定しています。

1 題材名 ふしぎな生き物

2 題材の目標

- ・ 陶土の特性を理解し、不思議な生き物を想像して作る。(表現)
- ・ タブレットで撮った写真を見せながら、造形要素に基づく説明ができる。(表現)
- ・ 造形要素をもとに、自分の考えを持つことができる。(鑑賞)

3. 題材の全体計画(全6時間 乾燥にかかる時間は別)

時	学習活動	評価の観点			1人1台端末の活用	
		知技	思判表	主体的	★共働的な学び ◆個別最適な学び	キーワード
1～2	ふしぎな生き物につける飾り部分を作る	○	○		◆	
	ふしぎな生き物を作り上げる	○	○		◆	
3	屋内・屋外の様々な場所で、ふしぎな生き物を入れた写真を撮る。これが第2の作品となる。		○	○	★ ◆	
4	写真作品の中から2枚を選び、共有ドライブの中の各自のスライドファイルに入れる。	○				スライド 共有ドライブ
5～6 (本時)	鑑賞会をする。 5/6 例示課題 6/6 相互鑑賞		○	○	★	スライド 共有ドライブ

4. 本時の目標 「かんしょうおたからキーワード」を使って鑑賞活動を楽しむ

5. 本時の展開

学習活動	○教師の指導・支援 ★協働的な学び◆個別最適な学び
1. めあてを確認する	
めあて：「かんしょうおたからキーワード」をつかって、お気に入りのなぞをとこう	
2. めあてにある「かんしょうおたからキーワード」の具体的内容（色・もの・けしき（おくゆき）・光と影）と、クイズの流れを出題から解答までを例題で確認する。 3. クイズに挑戦する。 出題者：「わたしのお気に入りの写真はどちらでしょう。」 児童：「かんしょうおたからキーワード」を分析のよりどころにしながら、どちらの写真が出題者のお気に入りなのかを話し合いを通して推測する。 4. 振り返りをする。 5. 次時の活動を確認す。	○クイズの流れをスライドを使って説明する。 ○写真を撮影した時の留意点を振り返り、造形要素の具体的項目を確認するとともに、本時の鑑賞活動のキーワードも同じ造形要素であることを伝える。 ★4人グループを作り、その中の2人がタブレットを開く。 1台のタブレットで出題者の1枚目の写真を、もう1台のタブレットで2枚目の写真を表示する。4人で2台のタブレットの写真を見比べながら、出題者はどちらの写真が気に入っているか造形要素をもとに話し合い見当をつける。話し合いを通し、造形要素を手掛かりに鑑賞するというスタイルを学ばせる。 ○造形要素に着目して取り組む鑑賞活動についての言及を促すようにする。 ○造形要素に触れた振り返りを出すことができた児童に関して、鑑賞が上手になってきたことを称賛し、次時の活動に対する意欲を喚起する。 ○次回は児童が自ら撮影した写真を使ってクイズを楽しむことを伝える。
評価基準 造形要素に基づく考え方でクイズの解答を考えることができたか。（思・判・表） A：造形要素に基づく考え方でクイズの解答を考えることができた。 B：造形要素に関してうまく言葉にできなくても、解答を考えることができる。 →うまく判断ができていない児童に関しては、こちらから造形要素を提示しそれを足掛かりに考えてみるよう促す。	

6. 成果と課題

【成果】

(1) 「タブレットを使つての授業」という観点からの成果

- ・鑑賞の対象としたものが、「ふしぎな生き物」という題材で制作させた焼き物の作品を、それが最も似合う場所に置いて写真に撮影させた二次的な作品を扱ったものだったので、タブレットを使う必然性があった。
- ・撮った写真をスライドに貼り付けて提出させることで、だれがどのような写真作品を作ったのかを、教師側が一括管理できた。
- ・各児童は、自身の焼き物の作品を、様々な場所に置いて撮影した写真の中から2枚を選びスライドに貼り付けた上で、「どちらがお気に入りの写真でしょう。」と問うクイズ形式の鑑賞に取り組んだ。スライド機能を使うことで、たくさんの写真の中から最終的に2枚選び出す作業が、鑑賞の視点に沿った形で効率よく比較検討することができた。
- ・出題する際に、グループに1台タブレットを用意させたことで7つのグループが同時進行で鑑賞活動を行うことができた。

(2) 図工の教科という観点からの成果

- ・鑑賞活動に当たり、作品を作る（写真を撮るという意味）際、および鑑賞する際に共通の鑑賞ポイント（色・もの・けしき・おくゆき・光と影）を提示・意識させたことで、児童一人一人が同じ観点で表現及び評価をすることができた。表現と鑑賞の一体化という意味で効果的な取り組みであったと考える。
- ・A 表現の(1)アの造形遊びでは、中学年になると造形活動が材料に加え「場所」とのかかわりが求められるが、場所の特徴を考えながら写真作品を作ることは、次のステージへの橋渡しになった。

【課題】

- ・事後研でも出たが、授業中タブレットを使う場面とそうでない場面（先生の話を書くときや話し合うときなど）のけじめをきちんとつけさせる訓練をする。どうしてもタブレットの画面に目が行ったり、操作する手を止めることができなかつたりする児童がいた。
- ・スライド機能は利便性が高く、様々な教科や活動で取り扱う頻度が高くなる。なるべく早い段階から基本的なスキルを身につけさせたほうが良い。
- ・引き続きだが、タブレットの強みを生かした授業構成や学習内容、言い換えればペーパーでは代替しにくい授業改善を研究していく必要がある。
- ・クラウドの活用、個別最適な学び（児童自身による選択、方向性の修正、教師のアドバイス・・・）、協働的な学びの場の創造などなど。

第4学年1組 社会科学習指導案

日時 令和3年11月30日(火) 3校時

指導者 教諭 松田 悠椰

場所 4年1組 教室

本授業のポイント

本授業は、小学校社会科副読本「わたしたちの佐賀県」に掲載されている佐賀県の偉人についてスライドを用いてまとめさせる活動を通して、郷土の発展に尽くした先人の働きや先人の思いについて考えさせる授業である（個別最適な学び）。まとめさせるにあたり、子どもたちに調べ、まとめたい先人を選ばせ、Web検索や、副読本などから取得した資料の取捨選択、資料の要約を行わせておく（個別最適な学び）。また、スライドを作成する手がかりとなるよう、教師が前時までに作成した児童のスライドデータを共有ドライブに複製、保存しておき、閲覧してよいことを伝える（協働的な学び）。

1 単元名 地いきの発てんにつくした人々（日本文教出版）

2 単元（題材）の目標

郷土の発展に尽くした先人について調べる活動を通して、先人らの具体的事例をとらえ、郷土の発展に尽くした先人の働きや郷土への思いについて考えることができる。

3 単元（題材）の全体計画（全13時間）

時	学習活動	評価の観点			1人1台端末の活用	
		知技	思判表	主体的	★協働的な学び ◆個別最適な学び	キーワード
1	郷土の発展に尽くした先人について知る。 ・鍋島 直正 ・島 義勇 ・山口 尚芳 ・佐野 常民	○	○	○	/	/
2						
3						
4						
5	スライドを用いてまとめときの工夫について考える。	○	○	○	★	・Web検索 ・課題 ・スライド・Classroom
6	興味のある郷土の発展に尽くした先人を選択し、副読本や、Web検索で先人の働きについて調べる。	○	○	○	◆	・フォーム ・Web検索 ・マイドライブ ・スクリーンショット
7						
8						
9	必要な資料(写真)を選択し、スライドを用いて、郷土の発展に尽くした先人らの働きについてまとめ、先人らの思いを考える。	○	○	○	★ ◆	・Classroom ・課題 ・共有ドライブ ・スライド
10 (本時)						
11						
12	自分がまとめた先人の働きや思いについて発表する。	○	○	○	★ ◆	・共有ドライブ ・スライド
13						

4 本時の目標

郷土の発展に尽くした先人らの働きについてまとめる活動を通して、先人らの働きや、郷土への思いを考えることができる。

5 本時の展開（10／13時目）

学習活動	○教師の指導・支援 ★協働的な学び ◆個別最適な学び
1 前時をふりかえる。	<p>○先人らの資料は共有ドライブに保存されていることや、スライドデータの保存場所について確認する。</p> <p>○先人らの働きをまとめるだけでなく、郷土への思いについても考えていくことを振り返らせる。</p>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">佐賀県の発てんにつくした先人についてまとめ、郷土への思いを考えよう。</div>	
<p>2 郷土の発展に尽くした先人について調べたことをスライドにまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鍋島 直正 ・大隈 重信 ・佐野 常民 ・島 義勇 ・成富兵庫茂安 ・山口 尚芳 	<p>○まとめる視点を提示し、活動の見通しを立てさせる。</p> <p>○佐賀県の発展に尽くした先人を1人選ばせ、副読本「わたしたちの佐賀県」や、タブレット等を用いて調べた資料を基に、スライドでまとめさせる。</p> <p>◆共有ドライブに保存されている必要な資料の取捨選択をさせる。</p> <p>◆スライドを用いて、先人の働きや、思いについてまとめさせる。</p> <p>★活動の見通しがもてない児童には、共有ドライブに保存されているスライドデータを参照できることを伝える。</p> <div style="border: 2px solid black; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>スライドを用いて、先人の働きについてまとめたり、先人の郷土への思いを考えたりすることができる。</p> <p>A：先人らの思いについて考え、自分の言葉でまとめることができる。</p> <p>B：先人らの思いについて、資料の言葉を引用し、まとめることができる。</p> <p>→共有ドライブで、他の児童のスライドが閲覧できることを伝え、先人らの思いに迫れるように支援する。</p> </div>
3 学習を振り返る。	<p>○スライドは、データのコピーを作成させ、共有ドライブ内のフォルダーにデータを移動させるよう声かけを行う。</p> <p>○次時の見通しを立てさせ、本時を終える。</p>

備考

佐賀の偉人について

<https://www.sagabai.com/main/3765.html>

山口尚芳

<https://www.city.takeo.lg.jp/rekisi/jinbutu/text/masuka.html>

6. 成果と課題

【成果】

- ・子どもたちが調べたい佐賀県の偉人を選択していた。また、偉人についての資料を共有ドライブに保存されていたため、資料の取捨選択や、共有ドライブにない資料を必要に応じて Web 検索をすることができていた。
- ・これまで、子どもたちがまとめてきたスライドを共有ドライブに残していたことで、他の子どもたちが参照しながらスライドを作成することができた。
- ・4年生になるとローマ字入力やタブレットの操作に慣れていた。特に、文字の色や大きさの変更や、スライドに画像に挿入する操作は手慣れていた。

【課題】

- ・タブレットを操作する場面と、そうでない場面をはっきりとしていなかった。タブレットの画面を見たり、操作したりしながら先生の話をしている児童がいるので、タブレットを閉じるなどの工夫が必要。
- ・板書を見た時に、スライドをまとめるための工夫についての手立てはあったが、社会科として手立てが見えない板書であった。板書計画の見直しが必要であった。
- ・社会科で使用する資料選びには、他の教科以上に留意しなければいけない。子どもたちが分からない言葉や読めない漢字などは、用語集などを子どもたちに配布するなどの工夫が必要。
- ・資料選びなど、教材準備の負担がやはり大きい。

第5学年2組 国語科学習指導案

日時 令和3年11月4日(木) 3校時
 指導者 教諭 中村周平
 場所 5年2組教室

本授業のポイント

本授業は、「固有種が教えてくれること」で使われている資料1と資料5を取り上げることで、資料の効果について考えさせる。その際に、資料1と資料5に関連する別の資料(教師が用意した資料)をそれぞれに比較することで資料選びには筆者の意図があることに気づかせる授業である。また、授業の最後の場面では、振り返りをスプレッドシートに書くこと(個別最適な学習)を予定している。

1 単元名 固有種が教えてくれること

2 単元の目標

- ・情報と情報との関係づけの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができる。(知(2)イ)
- ・引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。(思B(1)エ)
- ・目的に応じて、文章と図表などを結びつけるなどして必要な情報を見つけたり、論の進め方について考えたりすることができる。(思C(1)ウ)

3 単元の全体計画(全12時間)

時	学習活動	評価の観点			1人1台端末の活用	
		知技	思判表	主体的	★協働的な学び ◆個別最適な学び	キーワード
1	学習計画を立て、目的と見通しをもつ。	○	○	○	◆	共有ドライブ
2	文章の構成を捉え、筆者の考えをみつける。		○		◆	共有ドライブ
3	中を二つに分け、筆者の論の進め方について考える。		○	○	◆	スライド 共有ドライブ
4 本時	資料の効果や資料を選んだ筆者の意図について考える。		○	○	★ ◆	スライド 共有ドライブ
5	筆者の論の進め方や資料の効果について自分の考えをまとめる。		○	○	★ ◆	共有ドライブ
6	「電話加入数の推移」の資料を生かした文章の構成を考える。		○	○	◆	共有ドライブ
7	「電話の加入数の推移」の資料を生かした文章を書いて読み合い、文章のいいところを見つける。		○	○	◆	共有ドライブ
8	これからの社会について自分の考えの根拠となる資料を選び、文章の構成を考える。		○	○	◆	共有ドライブ
9	図表やグラフを用いて、考えが伝わるように書き表し方を工夫し、下書きをまとめる。	○	○	○	◆	共有ドライブ
10	これまでに注意してきた観点を意識して下書きを読みあい、推敲する。	○	○	○	◆	共有ドライブ
11	文章を完成させる。		○		◆	共有ドライブ
12	6年生からの感想をよみ、学習を振り返る。		○		◆	共有ドライブ

4 **本時の目標** 文章と図表を結び付けて考えることで、必要な情報を読み取ること（資料の効果）ができ、筆者の説明の工夫や考え（筆者の意図）をつかみ、自分の考えをもつことができる。

5 **本時の展開**

学習活動	○教師の指導・支援 ★協働的な学び ◆個別最適な学び
1 前時の学習の振り返る。 2 めあてをつかむ。	○要旨を書いたことや学習計画を立てたことを想起させる。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">資料1・5から資料の効果やどうして筆者がその資料を選んでいるのか考え、話し合おう。</div>	
3 本時の見通しをもつ。	○それぞれの資料からどんなことが読み取れるかを考えさせる。 (資料の効果)
4 資料1の効果や、筆者の資料を選ぶ意図について考える。	○日本とイギリスの陸生ほ乳類の図を添付した文章を提示して、筆者が資料1（図表）を用意した理由を考えさせるようにする。 ○比較する資料を提示し、筆者の意図を考えるようにする。 ○付箋を使い、個人で気づいたことや考えたことを書き込めるようにする。児童が書き込める付箋を2種類用意する。(ピンク…図について、黄緑…表について)
<ul style="list-style-type: none"> ・筆者は、イギリスと日本を比べているので、2つの国の位置が分かりやすいような図を選んだと思う。 ・筆者は、具体的な固有種の数を説明したいので、表を使うことで一目で比べて分かりやすいように表を選んでいると思う。 ・先生が作成した資料は、必要以上に色や文字が使われていて色んなところに目を奪われて筆者の伝えたいことからずれるからだめじゃないかな。 ・数値は文に書くだけでなく、表に表すことで比較しやすくなるから、入れないと筆者の伝えたいことが分かりにくいよね。 	
5 それぞれの考えを出し合う。 <グループタイム> <みんなでタイム>	○グループで付箋を貼りながら、話ができるように、話し合いシートを用意する。 ○図を選んだ意図と表を選んだ意図を分けて板書する。 ○資料と文章がつながっていることをおさえる。 ○比較する図では、不必要な情報が含まれていて、筆者の考えには不適切であること。資料選びには筆者の意図が表れていることをおさえる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>評価基準 文章と図表を結び付けて考えることで、必要な情報を読み取ること（資料の効果）ができ、筆者の説明の工夫や考え（筆者の意図）をつかむことができる。(思考・判断・表現)</p> <p>A 図・表・写真それぞれの良さを理解し、筆者が資料を選んだ意図について叙述をもとに考えることができる。</p> <p>B 筆者が資料を選んだ意図について叙述をもとに考えることができる。 →資料はどの文章に結びついているか一緒に考える。</p> </div>
6 学習のまとめ	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">筆者は自分の伝えたいことに合わせて、図・表・写真それぞれの良さを考えて選んでいる。</div>
7 学習の振り返り	◆スプレッドシートに振り返りをかかせるようにする。

6. 成果と課題

○成果

- ・スプレッドシートの可能性について考えることができた。
 - ① 振り返りの場面にスプレッドシートを使うことで、自分の毎時間の振り返りを書き溜めることができる。そのため、教師は振り返りから、児童一人一人の単元に関する学びの変容をみることができ、どのように考えが変化してきたのか分かりやすい。
 - ② スプレッドシートに教師のコメントや色分けすることができる。そのため、児童は、教師のコメントを気にするようになり、自然と前時の振り返りができる。また、次の授業の初めに、前時の振り返りとして児童の書いた内容を提示して確認することでき、全体で簡単に考えを共有しやすい。
 - ③ スプレッドシートは個別最適な学びとして適切であった。児童一人一人の振り返りが一枚のシートの中にあるので、何を書けばよいか迷っている児童は、友だちの書いている内容を見ることができ、自分の振り返りの参考にすることができる。友だちの考えにタブレットを通して簡単に触れることができることのメリットは大きい。
- ・授業の終末にタブレットを使っての実践には大きな意味があった。(これまでは、授業の中場面や話し合いの場面で使われることが多かったが、あえて振り返りの場面にも使うことで、タブレットの有用性を確認することができた。)

○課題

- ・事後研でも出たが、今回は授業の話し合いの場面で模造紙と付箋を使った話し合いを行ったが、タブレットよりもそちらが良かったから使わないではなく、タブレットだからこそ、こんな話し合いができるというところ見せるべきであった。
- ・今回の単元は、図や表や写真といった資料がたくさん出てくる単元なので、そこを意識して、教科書やノートだけでなくタブレットを使用して、もっと児童の学びの質を高める使い方はできなかったのかを考えるべきであった。
- ・児童がローマ字を入力する時間には個人差がある。また、タブレットの操作にも個人差があるので、そのあたりをどのように力をつけてあげるか。
- ・タブレットスキルには個人差がある。学年が上がるほど、内容が高度なものなり、多教科にわたるので、早くから、どの学年で、どんな力をつけてあげるのかを考えておく必要があり、教師同士で共通の認識を持つておく必要がある。(先生によっても違いがある。)

第1学年のびのび3組 算数科学習指導案

日時 令和3年11月15日(月) 4校時

指導者 教諭 桑原 愛実

場所 のびのび3組 教室

本授業のポイント

- 一人一人の能力や集中力に応じて課題に取り組めるように、タブレットのスライド機能を活用し、問題提示の仕方を工夫する。
- タブレットのカメラ機能とスライド機能で学習過程を記録し、児童同士で考えを伝え合ったり、振り返ったりする。

1 単元名

「かたちづくり」

2 単元の目標

色板や棒などを使って様々な形を作る活動を通して、図形を構成する力と観察する力を身に付けるとともに、形に親しみながら学ぶ態度を養う。

3 単元の全体計画(全5時間)

時	学習活動	評価の観点			1人1台端末の活用	
		知技	思考表	主体的	★協働的な学び ◆個別最適な学び	キーワード
1 本時	【色板を使った形作り】 ①三角形の色板を使って、見本通りの形を作る。 ②三角形の色板を使って、自分で形を考えて作る。			○	◆★	スライド カメラ
2	【色板を使った形の面構成】 ①三角形の色板を使って、シルエットで示された図形を作る。		○		◆	スライド カメラ
3	【色棒を使った形の線構成】 ①色棒を使って、見本通りの形を作る。 ②色棒を使って、自分で形を考え作る。	○			◆★	スライド カメラ
4	【点つなぎによる形の点構成、線構成】 ①点をつなぎ、いろいろな形を作る。	○			◆	スライド カメラ
5	【色板や色棒を動かして形を変容する活動】 ①色板を動かして、別の形を作る。 ②色棒を動かして、別の形を作る。		○		◆★	スライド カメラ

4 本時の目標

色板を使っていろいろな形を作ることに興味・関心をもち、意欲的に学習に取り組むことができる。

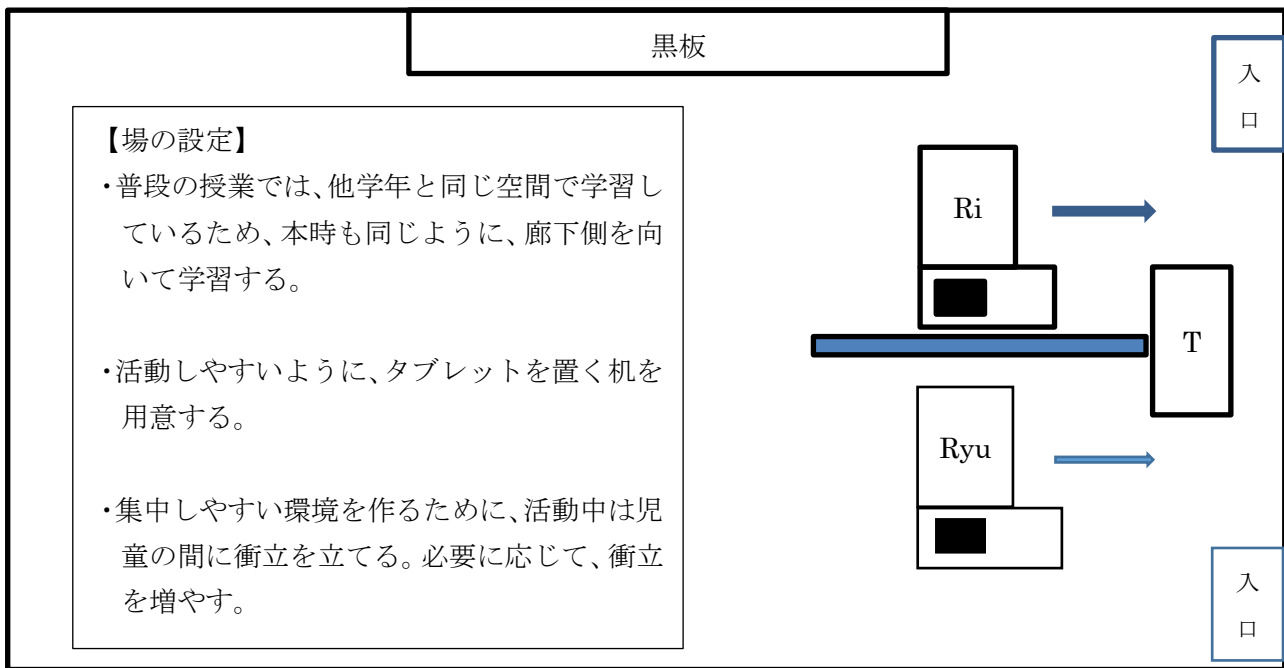
5 本時の展開

学習活動	○教師の指導・支援 ★協働的な学び ◆個別最適な学び	Ri	Ryu	備考
<p>1. 既習の図形を確認する。 (○、△、□) (2分)</p> <p>2. 本時のめあてと学習内容を知る。 (3分)</p> <div data-bbox="145 987 614 1151" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>(めあて) △のいろいたをつかって、 いろいろなかたちをつくろう。</p> </div>	<p>○図形のイラストを提示し、名前や特徴、同じ形の身近なものなどについて問いかけ、確認する。</p> <p>○本時は、「三角形だけを複数用いる」という部分に焦点を当て、既習内容との違いを伝える。</p>	<p>・手まげをして注意が逸れないように、机上には何も置かず、教科書は引き出しの中に入れておく。学習用具は必要な時に準備するように、言葉を掛ける。</p> <p>・見通しがもてるように、学習活動の順序を視覚的に提示する。</p> <p>・「約束カード」を用いて、タブレットの使い方を確認する。</p> <p>・周囲の様子に気を取られないように、活動中は、児童の机の間に衝立を立てる。</p> <p>【個人目標】</p> <p>・自分で考えて、いろいろな形を3つ以上作ることができる。</p>	<p>【個人目標】</p> <p>・教師の助言を受けながら、いろいろな形を3つ作ることができる。</p>	<p>・図形イラスト</p> <p>・ホワイトボード</p> <p>・約束カード</p> <p>・タブレット</p> <p>・色板</p> <p>・衝立</p>
<p>3. 見本と同じ形を作る。 (7分)</p> <p>4. 三角形の色板を使って、いろいろな形を考えて作る。(15分)</p>	<p>◆課題に着目しやすいように、教科書の見本をスライドで一つずつ示す。</p> <p>○1つできると報告するように促す。</p> <p>○色板の数や向き、どんな形に見えるかななどを問いかけ、確認する。</p> <p>○タイマーで活動の終わりを知らせ、切り替えを促す。</p> <p>○考える様子を見守り、状況に応じて、助言したり、一緒に操作したりする。</p>	<p>・花丸が出ると次に進めることを伝え、順番に行う約束をする。</p> <p>・見える形や色板の数を問いかける。</p> <p>・チャレンジ問題も用意し、早く終わったら取り組めるようにする。</p> <p>・活動中、良い気づきをしていたら称賛する。</p> <p>・自分で考えようとする姿勢や、考えた形を称賛する。</p>	<p>・友だちと比べず、自分のペースで行うように促す。</p> <p>・色と向きが同じになるように、必要に応じて言葉掛けや色板の操作をする。</p> <p>・活動中、良い気づきをしていたら称賛する。</p> <p>・自分で考えようとする姿勢や、考えた形を称賛する。</p>	<p>・スライド</p> <p>・色板</p> <p>・タイマー</p> <p>・色板</p> <p>・カメラ</p> <p>・スライド</p> <p>・タイマー</p>

<p>5. 作った形を見せ合う。 (6分)</p>	<p>○児童が考えた形をカメラで撮影し、スライドに添付する。</p> <p>○タイマーで活動の終わりを知らせ、切り替えを促す。</p> <p>○スライドで写真を提示する。</p> <p>○発表の仕方や聞き方の確認をする。発表の仕方を書いたカードを用意する。</p> <p>○衝立は外す。</p> <p>★色板の数やどんな形に見えるのか、考えた形の良さ等を引き出し、称賛する。</p> <p>★慣れてきたら、発表の仕方を変え、児童同士で、何の形を作ったのか、問題を出し合うようにする。</p>	<p>・前のスライドも参考にして良いことを伝える。</p> <p>・どのようなイメージをもっているのか尋ね、助言する。</p> <p>・発表前に、伝えたいことを教師と一緒に確認する。</p> <p>・自分で発表することができたら、称賛する。</p> <p>・否定的な気づきではなく、友だちのいいところを探すように伝える。</p> <p>・出題する、答える、などのやり取りができるように、発表カードを用意する。</p>	<p>・難しいと感じている場合は、色板を合わせる、向きを変える等、操作してヒントを出す。</p> <p>・発表カードをもとに、自分で発表することができたら、称賛する。</p> <p>・友だちの発表が終わってから、気づきを発言する約束をする。</p> <p>・否定的な気づきではなく、友だちのいいところを探すように伝える。</p>	<p>・発表カード</p> <p>・スライド</p>
<p>6. 友達が考えた形を、色板で作る。 (5分)</p>	<p>★スライドの写真を見ながら、友達が考えた形を作るように促す。</p> <p>○タイマーで活動の終わりを知らせ、切り替えを促す。</p>	<p>・お互いの様子が分かるように、衝立は立てない。</p> <p>・分からない時は友だちに尋ねて教え合ったり、できたときには、自分たちで確認し合ったりするように促し、やりとりを称賛する。</p> <p>・作った感想を尋ね、お互いに考えた形の良さを確かめる。</p>		<p>・色板</p> <p>・スライド</p> <p>・タイマー</p>
<p>7. 活動を振り返る。 (5分)</p>	<p>○見本や児童が考えた形の写真をスライドで提示し、本時の活動を振り返る。</p> <p>○同じ図形を組み合わせると、異なる形になることを確認する。</p>	<p>・振り返る前に、自分の色板やタブレットを片付けるように促す。</p> <p>・教師用タブレットのスライドを提示し、注目を促す。</p> <p>・「三角形の色板を2つ合わせると、四角形になる」などの気づきを引き出す問いかけをする。</p>		<p>・スライド</p>

<p>8. 次時の活動内容を 知る。 (2分)</p>	<p>○次時は、図形のシルエットを見本に、形を作ることを伝える。</p>	<p>【評価基準】 自分で考えて、いろいろな形を3つ以上作ることができる。 (主体的に取り組む態度) A 自分で考えて、3つ以上、形を作ることができる。 B 自分で考えて、1つ～2つ、形を作ることができる。 →教師と一緒に色板を操作し、形を作る。</p>	<p>【評価基準】 教師の助言を受けながら、いろいろな形を3つ作ることができる。 (主体的に取り組む態度) A 3つ以上、形を作ることができる。 B 1つ～2つ、形を作ることができる。 →教師と一緒に色板を操作し、形を作る。</p>	<p>・スライド</p>
-------------------------------------	--------------------------------------	--	---	--------------

6 場の設定



7 成果と課題

○成果

①1問ずつの提示→他に気を取られない。集中力が上がる。クイズ形式でやる気アップ。

図形の問題をタブレットで1つずつ提示したことで、注意が散漫で、自分の好きなことに熱中しやすい児童が、集中して順番通りに学習を進めることができた。花丸が表示されたら次の問題に進めるという条件にしたところ、クイズに答える感覚で、楽しんで学習に取り組むことができていた。

②見本をタブレット、実物で操作→有効。実物での操作は大事。

見本をタブレットで示し、操作は実物の色板で行ったことがよかった。スライドを見ながら、色板を操作してよく考えていた。スライドで図形の手順を示すのは有効。タブレットの不必要な操作も防止することができた。

③チャレンジ問題の設定→自分のペースで取り組むことができた。

早く終わった児童のためにチャレンジ問題を用意したことで、能力差がある中でも、自分のペースで学習に取り組むことができた。時間設定の調整も行いやすかった。授業に向かうコンディションも変わりやすく、集中力も途切れやすい児童が、周囲の状況を気にしたり、手持無沙汰になったりせずに、学習に取り組めるため、効果的であった。

○課題

①教材準備の負担

スライド機能にある図形を一枚ずつ組み合わせて作成したため、準備に時間と手間を要した。児童の実態に合った教材を提示することができたが、この方法で授業を続けていくと、授業の準備が負担になると感じた。また、今回のやり方では、タブレットで図形を自由に操作することが難しい。タブレットでも操作ができると、活用の幅が広がる。紙の見本の良さもあり、チャレンジ問題はプリントを用意したり、ICT支援の先生と打ち合わせて教材づくりのやり方を検討したりするなど、検討したい。

②タブレット操作からの切り替えの難しさ

情緒学級の児童は、熱中すると途中で活動をやめて切り替えることが苦手である。話を聞く場面でも、タブレットの操作をしてしまい、指導する場面も多い。タブレットを活用する頻度が多くなるほど、切り替えのルールも曖昧になりやすく、学習内容以外の部分での指導に時間を要する。今回は、物珍しさもあり切り替えがうまくいったが、タブレットは状況と場面に応じてうまく活用していく必要がある。